

# 施設・設備のバリアフリー

## ✓ 九州大学キャンパスバリアフリー検討研究会

これまでキャンパスの先進的なバリアフリー整備を担ってきたキャンパスバリアフリー検討研究会(2018～2021年度)の機能を維持し、先進性をより発展させるため、2022年度より「らくちん創造ラボ」を発足しました。らくちん創造ラボは、医学、心理学、発達障害学、色彩、視覚、音響、情報科学、建築、都市、交通等の多様な分野を専門とする教員、および、大学の学生支援、環境安全管理、施設計画を担う各部署の職員で構成しています。キャンパスライフ・健康支援センターのシンクタンクとしての機能を持ち、当事者の要望を受けた各部局等の個別対応に際し、最新の技術を含めた学内外の知見を学際的に利活用した最適解を見出す支援を行います。また、オーダーメイドの個別対応を蓄積して経験値を高め、大学全体の対応力強化につなげるとともに、学際研究と新技術実装の推進によりイノベーションを起こし、インクルーシブキャンパスの実現につなげることを目指しています。

## ✓ 主な実装事例

1

### 色覚の多様性に配慮したカラーユニバーサルデザイン

日本人の男性20人に1人(5%)、女性500人に1人(0.2%)が色覚異常であるといわれています。色の識別が困難な色覚異常の方々にとって、混同色が多用された見分けにくい視覚表示物は、優しくありません。本学では、色覚異常の大半を占める2色覚の方々の識別色をとりまとめた配色セットを開発し、キャンパス案内図を対象にカラーユニバーサルデザインを実践しました。この新しい手法を用いたキャンパス案内図は、2020年度の日本サインデザイン賞に入選しました。



色覚の多様性に配慮した新しいキャンパス案内図(椎木講堂前交差点)

2

### 肢体不自由の多様なニーズに対応した駐車場の改善

脊椎損傷者・頸椎損傷者は頭部の回転に苦痛を伴うため、駐車時に振り返ることが困難です。本学では、駐車時に後進を必要とせず、前進で入庫し、そのまま前進で出庫できる「通り抜け式」の障害者用駐車場を整備しました。また、従来のタイプでは福祉車両の車いす乗降において車両後方のスペースが大きく不足しますが、この新しいタイプはそのようなスペース不足にも対応しています。

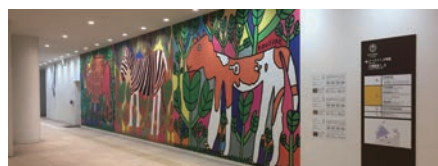


通り抜け式の新しい障害者用駐車場(伊都診療所)

3

### 障害者支援の啓発および無機質な空間の環境改善としての障害者アート展示

本学では、地域の福祉施設アトリエに所属する障害者アーティストの作品をグラフィックシートに加工して、キャンパス内の大きな壁面に展示する啓発プロジェクトを進めています。若い学生や教職員、学外からの来訪者が作品に間近に触れることで障害者の才能を肌で感じる機会を提供し、共生社会の実現に向けた気付きが醸成されることを期待しています。このプロジェクトは、企業や市民の皆様からの寄附により実現しています。



キャンパス内の大空間アート展示(中央図書館前の通路壁面)